

江戸城かわら版

認定NPO法人江戸城天守を再建する会

令和7年10月10日



CONTENTS

- 1 江戸城天守再建「バリアフリー問題」
- 2 寺村副理事長が理事長代行に就任
- 2 夏休み企画「親子で学ぶ江戸城報告」
- 3 歌舞伎編「回」中村萬壽先生講演会
- 3 小栗上野介「オンライン講演会」報告
- 4 三浦正幸「名城の天守」③高知城
- 6 黒田涼「べらぼう歴史散策」③
- 7 会員のひろば／事務局からのお知らせ

江戸城天守再建 検討会報告

「バリアフリー」と階段問題」を考える

講師・三浦正幸 広島大学名誉教授・当会特別顧問

令和の江戸城築城で
寛永度天守の何を
変えるべきなのか

レベーター」と階段問題」が取り上げられました。(五三名が参加)

もう一つの課題は「石垣問題」です。(〇月八日開催) 石垣の構造的安全性および文化財としての価値の両面から、現存する石垣の上に新たな木造天守を載せるための工法の検討が必要です。

これら二つの課題は江戸城再建を進めるうえで避けて通れない重要な問題です。

※なお、九月四日検討会では次のような質疑が交わされました。(回答は三浦先生によります)

(質問一) 江戸城天守にバリアフリーを適用すると、当初の建物を改良せざるを得ないと思います。創建時の状態からの改良はどこまで認められるのでしょうか。

去る九月四日、「江戸城天守再建検討会」(ZOOMで開催)で第一の課題として「バリアフリー」(エ

(回答一) 令和の時代に一人でも多くの人が歴史的建築物を有効に活用するために必要な改良を実施すべきと考えます。バリアフリーのほか、建物の安全性対策も重要です。

建築基準法第三条第一項によると、国宝・重要文化財に指定された建築物など、文化財保護法によって保護されている歴史的建築物は適用から除外されます。ただし適用除外された場合でも、地震などに対する建築物の安全性に対して代替措置が講じられます。既存の国宝・重要文化財においても、視野に入らないところには身体的な安全第一のために鉄骨などの補強が入っています。

(質問二) 歴史的建造物の復元においては造られたときの姿に忠実に



三浦正幸・当会特別顧問

再建するなら、エレベーターを設置できません。代案として人力による介助によって、身体障害者の上階への移動を支援することができませんか。

(回答二) バリアフリー法は、身体障害者や高齢者が円滑な移動を促進することがベースとなっています。現代では建物の他の階への移動時にはエレベーターが当たり前の設備になっています。高齢者や身体障害者の移動に対して、当たり前でない手段を強いることはバリアフリー法の精神を満たしていないと考えます。

(質問三) 署名集めをしていると今名古屋城天守再建で問題になっているエレベーター設置問題が必ず出てきます。そのときどのように回答すればよいのでしょうか。

(回答三) 天守にのぼりたいと思っ

た人のうちほぼすべての人が、第三者による介助を得なくても普通にのぼれるように当り前の手段としてエレベーターを設置します。「一人でも多くの方に上にのぼっていただく」を基本理念としたいところですが、現在、文化財であっても時代の変化に応じて不合理になったところを改良することが認められています。まだ会員の皆さんのコンセンサスを得ておりませんので、これから時間をかけて議論していただきたい。

名古屋市は二〇一六年に名古屋城天守閣木造再建計画を策定し、二〇二二年の名古屋城天守再建完成を目指していました。しかし、二〇一八年以来、復元検討委員会に、現存する石垣の上に新たな木造天守を載せるための基礎工法について反対意見が出され。今日まで合意形成には至っていません。

江戸城天守の再建も、この問題をどのように捉え、どのように対応していくか議論を進めます。

(文／理事・近藤)

秋季号

島田理事長が健康問題を理由に

辞任を表明

寺村副理事長が来年の総会まで理事長代行に就任



島田理事長

島田理事長が八月一九日理事会を締めくくる発言の中で、ご自身の健康問題のために理事長を退任したい旨を表明されました。「平成二九年三月の総会で理事長に就任してから八年六か月。この期間、会員の皆様から寄せられたご協力のおかげで乗り切ることができました。誠にありがとうございます（島田）」

対応策を打ち合わせする臨時理事会が八月二七日に招集されました。その結果、来年三月開催の総会まで寺村副理事長が理事長代行に就任し、理事長業務を代行することが決議されました。

続けて、寺村理事長代行から理事長代行就任順位を決めておきたい旨提案があり、木川専務理事が順位二番となることが決議されました。

今後は寺村理事長代行が理事会を招集して議長を務めます。

江戸城クイズ⑥(かわら版第76号9頁)の解答

出題: 当会理事・塚本一夫

[1]⇒(ウ)

明暦3年(1657)。ローマ大火、ロンドン大火と合わせて「世界三大大火」といわれる。ちなみに、赤穂事件: 元禄15年(1702)、桜田門外の変: 安政7年(1860)、坂下門外の変: 文久2年(1862)

[2]⇒(ウ)

4代家綱の治世は、慶安4年(1651)～延宝8年(1680)の足掛け29年に及ぶ。初代家康直系の最後の将軍。

[3]⇒(ウ)

大老の定員は通常1名で、評定所への出勤や月番も免除されていた。井伊家6人・酒井家4人・土井家1人・堀田家1人をそれぞれ輩出し「大老4家」といわれた。

[4]⇒(イ)

8代吉宗は、長兄らの相次ぐ死により、5代紀州藩主となった。このときに、諱を頼方から吉宗に改め藩主として12年間在位、参勤交代を義務付けられている。

[5]⇒(イ)

芝増上寺での、4代家綱の法要に際し、内藤は参詣口門の警備、片や出口勝手門を警備していた永井を日頃の遺恨から刺殺した。浅野長矩は、内藤の実姉の子。内藤家は痴癪持ちの家系という説もある。

親子で学ぶ江戸城・探索と講演 第三回



3グループに分かれて散策

千代田区観光協会の協力の下「親子で学ぶ江戸城探索・講演」を八月二三日に実施しました。今年で三回目となります。塚本一夫、鈴木俊也、黒木英俊の当会選任ガイド三名が、皇居東御苑探索と講演を三四名の参加親子に対して実施しました。

当企画は子供たちの夏休みの自由研究の題材にできることに配慮して、八月の後半実施にしております。参加親子に対して今年の夏の猛暑を意識して運営しました。

将来の「博士ちゃん」を目指す、お城に関心の高い子供たちが熱心に参加しました。探索の後、神保町の昼食会場ではガイドへの質問も多く出されました。我々としては次の世代に向けて、江戸城天守再建への決意を新たにしました。

(文/理事 黒木)

菊正宗

樽酒

手仕事でなければ、決まらない味がある。



KUJIMANOME TARI SAKU
MEISTER
FACTORY



飲酒は20歳になつてから。お酒はおいしく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。 神戸・灘 菊正宗酒造株式会社



江戸文化サロン

江戸の文化芸能シリーズ・歌舞伎編第一回

「中村萬壽先生講演会」

九月二十八日、浅草の料亭「茶寮一松」に、現代を代表する立女形の中村萬壽先生（五代目中村時蔵）をお招きし、五一名を前に初めての歌舞伎講演会を開催しました。

今回の演題は「初日の開くまで」で、歌舞伎の歴史、演目の決め方、大道具小道具、衣裳かつらなどの説明、稽古から化粧をして舞台に上がるまでをプロジェクトを使用して分かり易く丁寧に説明していただきました。最後には国立劇場再建の現状についてのお話も伺えました。素晴らしい内容に皆様も満足されたと思います。

中村萬壽先生の魅力について説明します。

一、長年にわたる芸の蓄積と名跡の重み

家名に込められた意味にも深みがあり、「萬壽」は平安時代の元号に由来します。

二、圧倒的な演技力

と女形の芸格

女形として数多くの大役を務め、歌舞伎界を牽引する存在です。

三、若手育成における教育者としての顔

二〇〇七年から国立劇場歌舞伎俳優養成課の主任講師として長年の経験と確かな技術を後進へ伝え、日本の伝統芸能を支える役割を果たしています。

四、豊富な受賞歴が



示す実力と評価

紫綬褒章、日本芸術院賞、松尾芸能大賞など数々の榮譽を受賞されています

五、家族とともに歩む伝統の継承

二〇二四年歌舞伎座で長男が六代目中村時蔵、孫が五代目中村梅枝として豪華な三代襲名を行い歌舞伎界の伝統と未来をつなぐ新しい出発となりました。皆様も是非歌舞伎座にお出かけいただき生の歌舞伎を五感で体験していただきたいと思います。

(正会員：水澤泰三)

江戸城サロン(オンライン講演会)

小栗上野介の

生涯が遺した大切なこと(前・後編)

再来年のNHK大河ドラマ主人公、小栗上野介忠順を取り上げて、六月二十八日(三九名参加)、七月二十六日(四一名参加)の前・後編二回、ZOOMを使って講演会を実施しました。

当会会員でもある堀早百合さん(一般社団法人万延元年遣米使節子孫の会理事)から、小栗が加わった万延元年遣米使節(一八六〇年に幕府が派遣)による日米初の通商交渉について詳細に伺いました。

小栗上野介がこれまで『逆賊』として歴史から消されていた幕臣であったため、彼の業績が正確に伝えられておりません。一例として遣米使節団に関する誤解に触れます。

まず必ず歴史教育で不平等条約であったと習う日米修好通商条約ですが、締結当初は決して不平等ではありませんでした。もう一つの誤解は、使節団が咸臨丸ではなくポーハタン号に乗船したことです。勝海舟が遣米使節として渡米したと思われていますが、そもそも咸臨丸はサンフランシスコにて折り返したので日米交渉にかかわっていません。

このようなお話をふんだんに聞くことができました。

名城巡り 特別史跡名古屋城と 国宝犬山城を巡る旅

開催日：2025年11月11日(火)＜予定＞

- 1) 名古屋駅集合 08:45 桜通り口「金の時計」
- 2) 名鉄犬山駅 09:30 着 犬山城+犬山市文化史料館+どんでん館(約2時間半)
- 3) 昼食後 名古屋城観覧 本丸御殿、西の丸宝館など(約1時間半)*天守は閉館中
- 5) 名古屋城観覧後は適宜解散

※東京～名古屋間の旅費、名古屋～犬山間の移動に伴う交通費、名古屋城・犬山城の各施設の入場料等は各自でお買い求めください。

お申込み：①氏名、②会員・非会員、③携帯番号 を記載の上、info@npo-edojo.org まで。

江戸城神田川・日本橋川クルーズ 江戸城の天下普請に 水辺から触れる

開催日時：2025年11月25日(火)11時00分出発
(約80分間)＜検討中＞

集合場所(変更する場合があります)：和泉橋乗船場
(JR秋葉原駅より3分) ※30分前より点呼確認

順路＜予定＞：和泉橋出発→神田川(お茶の水溪谷～後楽橋)→日本橋川(三崎橋～雉子橋～外堀の石垣～常盤橋～日本橋～南高橋)→隅田川(永代橋～清洲橋～両国橋)→神田川に入り和泉橋着

参加料金：未定(前回5,000円)／実施最低人数20名

お申込み：①氏名、②会員・非会員、③携帯番号 を記載の上、info@npo-edojo.org まで。

歴史に残る名城の天守

第33回 高知城天守

三浦正幸

広島大学名誉教授
当会特別顧問

高知城の沿革

高知城は、関ヶ原の戦いでの功績によって土佐一國九万石（後に二十万石に高直し）を与えられた山内一豊が築いた平山城である。一豊は豊臣秀吉の家臣であって、天正十八年（一五九〇）の小田原北条氏の滅亡による家康の関東移封に伴い、家康の旧領のうち掛川（静岡県）五万石を与えられていた。関ヶ原の戦いまでの間に掛川城を修築したとされ、その折に天守を創建した。それまで旧徳川領の東海地方の城には天守が全くなかったが、掛川城修築と軌を一にして豊臣配下の大名衆によって、岡崎城（田中吉政）・吉田城（豊橋市、池田輝政）・浜松城（堀尾吉晴・駿府城（静岡市、中村一氏）に次々と天守が創建された。

さて、高知築城以前の土佐には旧領主長曾我部氏が築いた浦

戸城（高知市）があったが、長

曾我部氏の残党があまいたいて領内が不穏だったため、長曾我部氏が築城を始めたが断念したという大高坂山に新規に築城して人心を一新しようとしたものらしい。この大高坂山城の地に高知城が築かれたのであり、高知城三の丸の発掘で長曾我部時代の未発達な石垣が出土している。

そして、一豊の高知城天守は、慶長八年（一六〇三）頃には完成していたと考えられる。ところが、享保十二年（一七二七）の火災によって天守とともに本丸が全焼してしまった。その再建工事はなかなか進まず、延享四年（一七四七）、山内豊敷の代になって漸く新天守が完成した。それが現存する高知城天守である。その時に再建された城門や本丸御殿は、後の改修や再造替はあるものの、本丸の建築全体が現存する全国唯一の例として重要視されている。

古式な望楼型天守の復興

現存する高知城天守は、四重六階の望楼型、独立式の天守である。望楼型天守の建造は慶長十六年（一六一一）の松江城天守辺りまでで、それ以降は新型の層塔型天守に急速に取って代わられた。寛永元年（一六二四）以降に創建され、貞享五年（一六八八）に大改修された丸岡城天守が圧倒的に後れた望楼型の例である。そうしたことからすると、江戸時代中期に旧式となつて久しい望楼型天守を再建するのは極めて異例なことである。初代藩主の山内一豊が慶長六年から築城を始めた高知城の初代天守の再現を目指したからとしか考えられない。

本丸の城壁が鈍角で折れ曲がる古式な鎧隅（慶長創業時以来の縄張）に高知城天守は建てられており、独立した天守台はな

く、本丸御殿と地続きの平地に建つ。したがって、この天守は石垣には一面だけが載り、残り三面は平地から直接に立ち上がる。全国の天守と比べると、その立地形態自体もかなり特異である。

一階（二重目）と二階（二重目）は、望楼型天守に多く見られるように同形同大の平面で、八間に六間（一四・一×二一・〇メートル）の規模である。ところが、長辺の八間は五尺八寸間、短辺の六間は六尺六寸間であつて、柱間寸法が長辺と短辺で相違しており、天守建築としては極めて異例に見える。そもそも五尺八寸という柱間寸法は、一般的には存在しない。

この天守の長辺の短くて中途半端な柱間寸法は、六尺六寸間の七間を八等分した柱間寸法（六・六×七÷八）として設計されたと考えられる。したがって長辺と短辺で一間の長さが相違しているのであつて、異例というよりは斬新な設計と言える。一階・二階ともに内部には間仕切りが全くなく、身舎と入側の明確な区別はないが、柱列を見ると、中央に四間四方（ただし、柱間寸法は縦横で相違）の広い部屋を置き、短辺側に二間四方の部屋を二室ずつ、長辺側に幅一間、長さ八間の入側に

類するものを配している。四間四方という梁間の大きな部屋は、最上階を除いて天守には滅多に使われない規模であつて、極めて異例である。

この四間四方の直上に三階と四階（三重目）が位置し、そのまま三・四階の平面規模となっている。二重目の屋根は望楼型の基部となる入母屋造であり、三階はその屋根裏階である。したがって、三階の短辺側には入母屋破風の間が設けられる。また長辺側にある大きな千鳥破風については、背面側（御殿側）にだけ破風の間を設ける。

五階は、四重目の屋根裏階であつて窓がなく、階高は二メートルもない。五階の床梁が床面より上に渡されているので、これをただの屋根裏とみなして階数に参入しない場合もあり、重要文化財指定では四重五階天守とされている。五階・六階は、同大の三間（五尺六寸間）四方であるが、そのまたしても中途半端な五尺六寸という柱間寸法は、六尺六寸間の二間半を三等分したもののようである。六階の周囲には半間幅の廻縁を古風に設ける。

高知城天守の外観は、二重二階の入母屋造の大屋根上に二重の望楼を載せた典型的な望楼型天守の形態を見せる。入母屋の

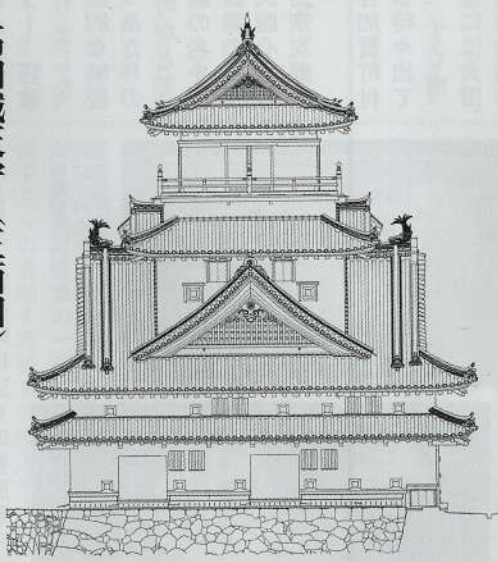
大屋根から上で大きく通減し、最上階を廻縁付きの三間四方とする。大屋根と最上重で入母屋破風の向きを直交させること、大屋根の長辺側に明り採りの大きな千鳥破風を設けること、それらの点で初期の三重や四重の望楼型天守の形態を忠実に再現している。柱間寸法や間取りについては再建時の新時代の好みに従っているが、概ね豊臣時代の大名衆の天守の趣を伝える現存唯一の古式な天守と言えよう。

なお、高知城の初代天守については、廻縁設置が一豊の切望だったという。四国に廻縁をもつ天守はないので目立って幕府に睨まれると重臣らが一豊に反対したが、幕府の許可をわざわざ得て廻縁を設けたと伝えられる。この伝承の真偽はともかく、一豊の初代天守の姿は土佐藩において尊崇されており、そこに確信的時代後れの望楼型天守が再建された理由があるようだ。

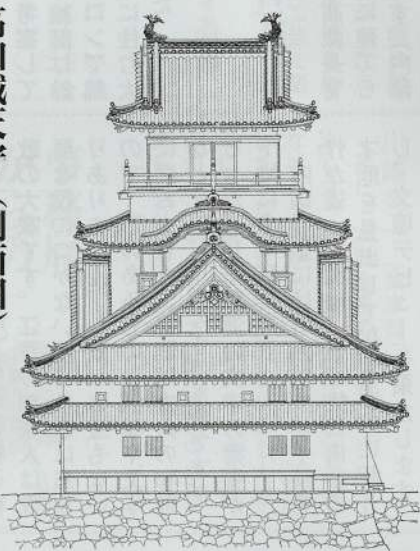
また、各階の階高は、現存天守中では最も低く、弓矢の使用が困難になっている。総高は四階建ての天守に近い。外壁は白漆喰の塗籠とし、一・二・四階には極めて大きな鉄砲狭間を開く。石垣に面しては、石落を二か所設ける。その石落は、外壁面からの出が異様に大きく、鉄

砲を撃つにしては開口が広すぎて足場が不安定で危なっかしい。文字通り石を落とすものと誤解して設計しているようである。そうだとしたら、石落の正しい機能を忘れた泰平の世の産物と言えよう。その石落を含めて、一階外壁の下端には忍び返しの剣先をびっしりと並べており、防備は至って厳重である。類例は熊本城大小天守など稀有である。

高知城天守 (正面図)



高知城天守 (側面図)



日本の建築史を専門とする
広島大学名誉教授／三浦正幸博士の
江戸城の解説動画をこちらから
ご覧いただけます。

続きは動画を
チェック！



江戸城クイズ⑦

「江戸城クイズ」第7回です。
今回も難題です。
奮って挑戦してください。



- 1 一佃島の漁民は白魚漁の権利を幕府から与えられていた。初代家康に召し出された彼らは何処の出身だったか。
(ア) 安芸国 (イ) 播磨国 (ウ) 摂津国 (エ) 紀伊国
- 2 隅田川日本堤は、新吉原に行く遊客たちが通った道だが、元々初代家康は別の目的で諸大名に命じて作らせた。それは。
(ア) 桜の名所として (イ) 洪水対策として (ウ) 防火対策として (エ) 江戸御府内の境界として
- 3 一神田上水は江戸最古の上水で、江戸城外堀としての役割もあった。ではその水源は。
(ア) 石神井川 (イ) 多摩川 (ウ) 井の頭池 (エ) 神田お玉ヶ池
- 4 一正徳4年(1714)、7代家継の聖母月光院に仕えた大奥御年寄江島(絵島)が、役者生島新五郎との乱行を理由にお預けになった藩とは。
(ア) 讃岐国高松藩 (イ) 信濃国高島藩 (ウ) 信濃国高遠藩 (エ) 上野国高崎藩
- 5 一幕府は、文政元年(1818)江戸御府内の範囲を地図に朱色の線を引いて発表した。これに対して、墨色の線を引いた範囲は何か。
(ア) 幕領の範囲 (イ) 寺社奉行管轄の範囲 (ウ) 町奉行管轄の範囲 (エ) 勘定奉行管轄の範囲

* 解答は次号でお知らせします。第6回の答えはP5に掲載しました。出題▶当会理事・塚本一夫(江戸文化歴史検定一級/日本城郭検定一級)

黒田涼の江戸 東京歴史講座

NHK・大河ドラマ「べらぼう」歴史散策

【第三回】天明狂歌が生まれた新宿区

黒田涼

作家・江戸歩き案内人
当会特別顧問

二〇二五年NHK大河ドラマ「べらぼう」関連地の歴史散策、3回目は新宿区です。萬屋重三郎飛躍の要因の一つである天明狂歌の流行ですが、現在の新宿区が発祥地でした。寛政の改革までは、付近に住んだ御家人筆者が主な担い手だったのです。

天明文化を支えた江戸の街の発展

天明年間になると日本の文化に大きな変化が現れます。文化の中心が上方から江戸に移るのです。それは江戸が政治に加え、経済的にも上方より優位になってきたことが要因で、特に100万人とも言われた人口と町人たちの実力に支えられたものでした。

内容としては華美な高級品が中心だった元禄文化から、浮世絵・戯作文学・狂歌といった大衆文化に中心が移ってきます。このいずれもが天明年間に隆盛を迎えます。

その中で狂歌は、当初はさほど裕福ではない御家人（小禄の將軍直臣）の暇つぶしサークルから生まれ、発展し、流行したものです。この御家人グループは多くが新宿区の旧牛込区や旧四谷区の御家人

居住地に住んでおり、頻繁に行き来しながら狂歌を競い合いました。

また浮世絵も、錦絵を考案してその人気の発端となった絵師は鈴木春信ですが、彼のバトロンで錦絵を作らせたのは神楽坂に住む大身旗本の久保巨川でした。

近所だった大田南畝と朱楽菅江

大久保邸跡は現在、最高裁長官公邸となっており、戦前に建てられた建物は重要文化財です（内部見学不可）。飯田橋駅から徒歩10分ほどです。そこから目と鼻の先に、江戸最大の文化スター、狂歌師の大田南畝生家がありました。

今は肉まん店があり、私的な解説板が掲げられています。あたりの住所は北町・中町・南町などで、江戸時代の御家人居住区の名を引き継いでいます。その西隣の細工町あたりには、田沼意次腹心として睨まれ斬首された土山宗次郎の豪邸がありました。

さらに西に進んだ市谷加賀町付近には「べらぼう」にも時々出てくる朱楽菅江邸があり、すぐ南、大日本印刷本社のあたりには大田南畝と朱楽菅江の師である内山椿

軒邸がありました。

内山も御家人だったようですが、「江戸六歌仙」と言われる和歌の大家です。江戸の御家人は重要な役につかない限り仕事はあまりありません。しかしお金もないので、志のあるものは儒学や文学に励みました。狂歌は古典の和歌などをもじり、ふざけた歌ですが、しっかりした和漢の文学の素養が下地にありました。

内山の塾には町人ですが平秩東作が通っており、彼が大田南畝の才能を見出して平賀源内に紹介し、文壇デビューを果たします。東作の家は現在の新宿2丁目あたりでした。墓は曙橋近くの善慶寺



大田南畝生家跡に
掲げられた
手製の解説板



戒行寺にある長谷川平蔵供養碑



成覚寺にある
恋川春町の墓

にあります。

またドラマには出てきませんでしたが、便便館湖鯉鮒というやはり御家人狂歌師の家もちよつと北の市谷山吹町です。墓も神楽坂の光照寺にあります。「三度炊く飯さえこわし柔らかし 思うままにはならぬ世の中」という有名な狂歌碑が南畝の揮毫で西新宿の常円寺にあります。

四谷三丁目 生まれた狂歌ブーム

牛込地域からほど近い四谷も大なる場所です。四谷三丁目駅の南東、忍原横町にはやはり御家人の唐衣橋洲が住んでいました。彼が1769年、自宅に大田南畝や平秩東作を招いて開いたのが、史上最初の狂歌会です。

後に南畝と仲違いしたためか「べらぼう」には出てきません。また橋洲は近所に住んでいた学者の萩原宗古（塙保己一の師）と内山椿軒を判者に狂歌イベントを開

いて成功させるなど、初期の狂歌人気拡大に貢献しました。南畝・菅江・橋洲を「狂歌三大家」と呼びます。

萩原宗古の墓はやや南の本性寺にあり、門前の通りの東端にある戒行寺には長谷川平蔵の供養碑があります。

このように初期の狂歌担い手の御家人たちの家は近所で、近くの寺を会場にしばしば狂歌会を開きました。こうした会は武士・町人の区別なく参加でき、次第にゆとりのある町人たちの参加も増えてきます。

寛政の改革で出版弾圧が始まると武士たちは難を恐れて狂歌から遠ざかり、のちに「狂歌四天王」が現れますがいずれも町人でした。

この出版弾圧で自刃したと思われる恋川春町（狂歌名は酒上不埒）の墓が、平秩東作邸に近い成覚寺にあります。





会員のひろば

投稿、提案、
当会イベント情報などを
随時掲載します。

野瀬弘文 (埼玉県)

私は埼玉県越谷市で銘木店を六〇年近く営んでおります。仕事から木を見るのが好きで、旅行などで杜寺仏閣など古い建物に興味を持っていつも見させて頂いております。特に材料の使い方、活かし方、それに材質に応じた使い回しが実に素晴らしい、またその仕事に携わった職人の心情が伝わってきます。ごつごつの荒れた手で息を止めながら仕上げたノミの跡を見る時、名もない職人様には感謝を申し上げます。この度、江戸城の再建運動に参加させていただき、大変光栄に思います。日本の歴史のロマンに触れられる事の喜びに感謝しております。

松本真弓 (東京都)

私は八年ほど前から母の介護で故郷沼田に通い、二拠点生活を送るようになりました。その中で広島大学名誉教授三浦先生の講演に「縁を頂き、沼田城を造る会」に入会致しました。学校で通り一遍の歴史しか学んでおりませんでしたので、講演は大変勉強になりました。元々お城を見て回るのが趣味だったので、沼田城再建への思いが強くなりました。そんな折、江戸城再建の会の皆様との出会いがあり、なんだか導かれてい

るような気持ちになりました。お城は日本の象徴として日本人の心の中に在ります。再建を願ってやみません。

松井欣也 (東京都)

堀江貴文さんのユーチューブ動画を拝見したことをきっかけに自分でも少し調べてみた結果、入会の申込をした次第です。現在三鷹に住んでおりますが、もともと三鷹生まれの私の先祖は江戸城天守が火災で焼けた「明暦の大火」の際に神田連雀町から焼きだされて今の三鷹に移り住んで現在に至っております。そのようなわけで「明暦の大火」で消失した江戸城天守の再建には縁を感じております。今、日本国内はある種の閉塞感や暗い話題が多いですが、江戸城天守再建は首都東京の価値を高め、日本の木造建築や美術工芸に関

する伝統技術の継承、意義のある観光資源の開発につながるプロジェクトであると感じております。江戸城天守再建実現に向けて少しでもお手伝いできればと考えております。

青木久義 (東京都)

世界的に見てもあまり例を見ない二五〇年間という長期平和を維持した江戸時代。この重要な歴史の最大のシンボルとなる江戸城の再建は、まさに今の時代、平和を願う強い意志の表れであると考えられます。そのため太田道灌の一族である太田久美子さんの活動を応援べく入会させて頂きました。

川崎秀一 (東京都)

過日、太田会長のご講演を拝聴しました。東京を除く大都市には有名な城と天守があることを改めて認識しました。また世界の名だたる大都市にも建築物が残っています。大東京のシンボルとして江戸城天守の再建を改めて強く感じました。

事務局 からの お知らせ



「請願署名」にご協力ください

一万筆の請願署名を今年度の目標としています。
会員の皆様には、ご家族、ご友人の皆様にも、この請願署名へのご協力をお願いしてまいります。

新規会員の勧誘にご協力を

当会の活動は主として正会員、賛助会員の会費によって運営されていきます。本年も新入会員二〇〇名を目標としています。ご協力ください。

住所変更届けのお願い

ご住所・電話番号などが変更した場合、ファクスや電話で早めにご連絡ください。会からのお知らせが届かなかったりします。

メールアドレス登録のお願い

メールアドレスをお持ちの方は事務局にメールをお送りください。イベント等の情報をお届けします。

会費納入のお願い

それぞれの会員の皆様のご入会前月に次年度の「会費納入のお願い」をお送りしています。ご協力のほどお願い申し上げます。

年会費納入法

◆年会費カード決済
会費納入や寄付金の決済は、クレジットカードにも対応しています。カード決済ご希望の方は、当会ホームページからどうぞ。



自動継続をご希望の方は、HPの「カードによる継続会費のお支払い」からお手続きください。

◆年会費自動払込(ゆうちょ銀行)

当会では、ゆうちょ銀行口座からの年会費自動払込を行っています。ぜひご協力ください。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

新規入会の皆様、 歓迎します

●新規入会 令和七年六月一日～令和七年八月三十一日
入会順 三十三名



LINE友達登録の
お願い



〒101-0065
東京都千代田区西神田
2-5-7-505
E-mail=info@npo-edojo.org
事務長 / 浅井純一、山本りか